

いっぽん!

第6号



■発行 伊藤ふみひろ後援会広報委員会 ■発行責任者 伊藤文博 ■連絡先 Tel.025-562-3988
■公式ホームページ URL <http://www.fumihiro-ito.com> ■E-mail f-ito@fumihiro-ito.com



会派：新政会
所属委員会：
文教民生常任委員会
行政改革調査推進
特別委員会

明けまして
おめでとうございます

本年も有り合わせを

尽くして働きます

ご指導の程

よろしくお願いいたします

12月定例会報告

13議案1諮問4報告1陳情請願が審議され、可決されました。また、20人の議員が一般質問に立ち、活発な議論が展開されました。

「焼山」の入山禁止解除の方向が示されました。

気象庁、林野庁、妙高市などとの協議で、12月4日の時点で、入山禁止解除に向けて動き出すことが確認されました。糸魚川市の観光振興にとって、一つの障害が取り払われることは、朗報です。

民間有志の手により維持されている「梅海新道」の維持管理と観光振興への活用の問題も、今後の大きな課題です。

「地域情報化事業」について

合併時の新市建設計画の三本柱の一つである「情報ネットワーク」の確立について、「ラストワンマイルの整備」を市民に約束して合併が行われました。

糸魚川市にとってどのような形での「情報ネットワーク」が有効なのか慎重に検討され、現在のところ結論が出されるに至ってはいません。

結論を出さないで先送りしていることに対し、推進派の議員からは、強い批判が出ています。

現在検討されている選択肢は、簡単に言うと、「インターネット」か「ケーブルテレビ」ということです。

◆インターネットが高速で使える環境を整える。糸魚川市のホームページやメール配信サービス、IP告知端末機により糸魚川市の情報を得ることが出来る。

旧糸魚川局・旧青海局管内はNTTが、それ以外(中山間地)は糸魚川市が光ファイバーケーブル網を整備する。
NTTがブロードバンド(高速通信)サービスを提供する。

◆ケーブルテレビ事業を導入し、市民誰もが、良い環境でテレビが

見られ、テレビで糸魚川市の情報(コミュニティ放送)を視聴でき、インターネットも高速で利用できる。

糸魚川市が光ファイバーケーブル網を整備する。

JCV(上越ケーブルビジョン)が新会社を作り、ケーブルテレビを運営し、ブロードバンド(高速通信)サービスも提供する。

の2つの提案による選択肢です。

検討課題は、

①どちらが一般市民にとって、行政情報を入手しやすいか。

②現在、テレビを不自由なく見られている人が、ケーブルテレビに加入してくれるか。(加入率に影響)

③糸魚川市民の負担は、事業費の糸魚川市純粋負担(税金)と個人負担を含めて、どうであるか。
④新会社の経営計画の内容が適正か、存続可能か。

などです。

それぞれの検討課題に対して、

①② ポイント【操作性】

インターネットは、パソコンなどが必要であり、テレビに比べて操作が面倒だと言われている。



ます。

一方、ケーブルテレビは機械に不慣れな人でも容易に情報を入力できるといいます。であれば、加入率をどう上げるかが重要です。

加入者を多くし市民平等に情報を提供できなければ、その利点は活かされません。

◇ポイント【サービス内容】

市が、両システムでどのようなサービスを提供するのかが明らかになっていません。

両案で何が出来るのか、何をしたいのかを行政サイドは明らかにしなければなりません。

行政の各部・課・係が、庁内全体の問題と捉え、どのように情報ネットワークを使ってサービス向上できるのかを議論しなければなりません、現在はここが欠けています。

結論が先送りされた今、庁内論議を高め、全体の問題として市民サービスの方向性を打ち出すことにより市民の理解を高める必要があります。

実施後の加入率を上げて本来の目的を達成するためにも、現時点におけるこの点の努力は不可欠です。



③費用の面では、両案共に大きく進展し市民の負担は当初より軽減され、大きな差はなくなっています。数字を上げると一人歩きしてしまうので、ここではそれを避けます。

④新会社経営計画のケーブルテレビ及びインターネットの加入率見込みが可能な設定かどうかポイントです。

費用を抑える、又は、同じ費用であればより高いサービスを、というのとは基本です。議論を重ねてきただけの成果は提案内容に現れています。

情報ネットワークの整備事業は、住民サービスと地域(産業)振興のための「手段」であり、「目的」ではありません。米田市長には、50年の将来を考えて、しっかりと庁内論議を高め、それに基づいての検討と決断が求められています。

情報ネットワークについて

私の個人的意見としては、「情報ネットワーク」の確立は、現代社会において必要不可欠な事業と認識しておりますが、現在の「糸魚川市ホームページ」を見ても、リアルタイムで情報を発信されていないのが現状です。広報といいがわや放送を視聴しそびれても、ホームページで確認できるような運用を目指して貰いたいものです。

事業を行う事が目的ではなく、中身のあるサービスの提供を目指して下さい。

高齢者の多い地域での情報事業は、大変なリスクが伴います。高齢者にも、情報ネットワークの必要性を十分理解出来る説明が必要です。より多くの市民に理解を求める為に、具体的なサービス内容を示して、加入し易い価格でのサービス提供を期待しています。

糸魚川市須沢 40代 男性

一般質問を終えて

今定例会では次の考え方で一般質問を行いました。

1. 健康づくり及び介護予防

◆キーワード①

【「健康づくり」「介護予防」両事業の連携】

「両事業の連携」に着目して健康づくり及び介護予防について質問しました。

「健康づくり」は健康増進課、「介護予防」は福祉事務所と、両事業の担当課は別になっています。

しかし、両事業は市民の側からみると境目はなく、適用されている事業費が違うということでしょうかありません。縦割り行政の弊害をなくし、確実に効果を上げるシステム作りが期待されます。

和光市の例(いっぽん第5号参照)をあげて、職員の派遣も含めて提案しました。

◆キーワード②

【ソフト計画とハード計画の整合性】

「健康づくりセンター(仮称)」の建築設計と、「健康いといがわ21」の策定業務が同時進行で行われようとしていて、「健康いといがわ21」の実施面での詳細な計画はその後に策定されなければなりません。

議会を傍聴してみませんか。直接ご覧になると、色々見えてきますよ。能生地域ではケーブルテレビで議会で継ぎされているように、この点でも情報格差が広がっています。早期の是正が必要です。



ません。

ハードとソフトの齟齬（そご）をきたすことのないようにするため、どのように計画策定と建築設計の連携・調整を図るのが重要です。

詳細な計画が定められて、事業の「目的」がはっきりとされていると、本来「手段」である事業を行うことが「目的」にすり替わってしまう危険性が大きい。

「目的」と「目的を達成するための手段」が具体的に定まっていると、大枠の計画のみに従って事業を予算化する。そこには、行き当たりばったりという危険性が潜んでいます。

そして、実施すると仕事は終わり「手段」が「目的」にすり替わってしまった・・・となってしまうのでは？ということなのです。

健康の大切さに思う

喜寿を迎えようとするこの頃、健康づくりに気を使って毎日を過ごしています。

十二年前、年一回の定期検診の結果、胸部大動脈瘤が見つかり、また五年後に別の所にも再発しました。いずれも五ヶ月もの入院生活をして、医学の進歩、家族の暖かき、友達の大切さや優しさを沢山いただきました。

今では風邪もひかず薬も飲まず、家中で一番健康だと自負しています。電話の声に、高岡の友達かな、新潟の友達かな、市内の友達かなと心をときめかせ、数分間の心の健康を貰っています。

二十台から九十二歳迄の友達が私の財産だと思っています。孫からの言葉の健康、友達からの心の健康を貰い、脳の健康にしています。毎日腹筋二十回、ストレッチ十分間を欠かさず、老いと向き合いながら楽しく毎日を過ごしています。

糸魚川市須沢70代女性

2. 市民サービスの付加価値

◆キーワード①

【本来の目的以外にも効果】

一つの事業で、本来の目的以外の効果、すなわち「付加価値」を生み出すという考え方が大切です。庁舎内、職員の意識の中に「付加価値」という考え方が根付いているかどうかを問いました。

残念ながら、明確な考え方としては存在していなかったようです。また、現在行われている事業の付加価値を理解して、見直しなどにはそれへの検討も必要です。

〈例〉資源回収補助金の付加価値

※いっほん第5号でお知らせしました



①資源回収という本来の目的

②教育効果

③生徒間のつながり育成

④地域コミュニティ

⑤市民参画意識の高揚

このようにいくつもの付加価値がある、この補助金の見直しが行われました。

担当課に「付加価値」という考え方がないために、他の部署との事前協議がなされず、担当の市民

課の考え方のみで補助金が削減されました。補助金を削減し、その内の必要分を教育費で予算化するという矛盾を行おうというのです。付加価値を放棄する政策だといえます。横の繋がりのない縦割り行政の弊害です。

また、この件について問題提起がされた時点でも、なぜそのような問題が発生したかという根本的な問題は、協議の対象にもなっていません。

◆キーワード②

【部長制】

合併一年後に組織変更したのは縦割り行政の弊害排除に市長の強い意志があったからだと思います。部長制が機能しているか常にチェックしなければなりません。

部長の個人能力と、部長制がシステム的に有効に働いているかのチェックがありますが、チェックしなければならぬマネジメントシステムになっているかどうかも重要です。

〈例〉総合計画

総合計画に「少子化対策」という文言を入れるために3回の会議で意見を言って、やっと「少子化対策」が総合計画に入りました。国が最優先課題と位置付けて担当大臣まで新設した問題が、糸魚川市の総合計画の中に文言さえ入っていないという状況があったわけですが、これは、複数の部・課にまたがる政策だからです。



横断的な協議なしで総合計画の原案を作っているから、重要な問題がすつぽりと抜け落ちてしまいました。これも「縦割り行政の弊害」です。

「部長制」の十分な機能発揮を期待しますし、それを活かす事務管理手法の改善も求められるところです。

効率的な行財政運営について

米田市長になって新たに部長制度を取り入れられました。更に今年度は副市長制度も出来て助役さんが移行するようです。

従来縦割り行政には弊害も多かったようです。凡そ一年経過した今ではどうでしょうか。一市民として振り返ってみるとまだまだ物足りなさは感じます。

年末の市議会では伊藤議員が指摘しておりましたように、資源回収の奨励金については行政改革の見直しという大義名分で打ちきりになりました。関係する者には不思議でなりません。

しかしながら、異なる分野の課が市民グループと共に助け合っただけの行事を推進しているケースもあります。

昨年実施された「おまんた市」や「街中コレクション」などはよい例であると思います。

行政改革は緒に就いたばかり、今後期待しています。

糸魚川市中央 60代男性

伊藤の考え (シリーズ)



○中学生への話 その2

前回に引き続き

昨年3月、青海中学校2学年に相学の授業で話した内容の3つのキーワード

「分」「公共」「覚悟」

のうち、今回は「公共」について取り上げてみます。

「公共」

社会一般(の人々に関すること)

【公共心】私利にとらわれず、公共の利益を優先させようと心がける気持 || 自分だけの都合だけを考えず、廻りのことを考えること (知らない人も含めて)
↓ 一人で生きているのではない

誰でも自由に出入りできる場所は全て「公共」の場であり、自分がしている行為で一般社会の人々に不快感を与えることは適切な行為ではありません。

「一般常識」を教育するのは親の責任であり、社会の責任です。

- ① 「一般常識」を含めて社会のルールを破ること

② 弱いものをいじめることは許されないという考え、生き方を身につければなりません。公共の観念(公共心)を持つことで、社会が円滑に流れるようになるでしょう。

例えば、

「コンビニの前でコンクリートに座り込んでいる中学生」

ここは公共の場であるということが分かっていません。注意すると「誰にも迷惑を掛けていないからいいじゃない」という屁理屈が返ってきます。大人には、それに明確に叱えられる常識が問われています。

「誰でも出入りする公共の場でそのような行動を周りの人が見ただけで不快になる。十分に迷惑を掛けている。」のです。

「電車の中で化粧する高校生」

右に同じです。これには「心得違い」もあります。「化粧」は何のためにするか、ですね。

人前に出るのに身を整える(身だしなみ)のであって、人前でする行為ではないのです。言い換えれば公衆の面前で着替えているのと同じことです。

「いじめ」の問題も、双方が、

「一人で生きているのではない」ことを心に染みて分かれば・・・と思います。



新政会で市長への政策要望
平成18年12月21日
市長応接室にて

編集後記

新年おめでとうございます

今年の冬は雪もなく、生活をずるには大変快適ですが、地球温暖化が原因?等々心配になります。

琴欧州関が宣伝している「私にも出来るECO」を実践し、少しでも温暖化防止になればと思います。また、最近とても考えられないような事件が相次いで起きています。伊藤議員の考えの中で「公共心」というキーワードがあります。今一度「一人に対する心」というものを家族で考えてみたいと思います。最後になりましたが、皆様が平和で健康な一年を過ごせますようお祈りしています。

N

伊藤ふみひろ後援会の活発で和やかな活動に、皆さんも参加してみませんか。

後援会連絡先▼56212121